

## 研究名

常染色体優性多発性嚢胞腎患者におけるトルバプタン適正使用調査について

### 1.研究の対象

当院において2020年3月までにトルバプタン内服を開始した、ADPKD入院患者12名を調査対象とした。

### 2.研究目的・方法

常染色体優性多発性嚢胞腎(以下ADPKD)は国が定める難病とされており、長年治療方法が確立されていなかったが、2014年バソプレシンV2受容体拮抗薬であるトルバプタンがADPKDに対する治療薬として保険収載されることとなった。しかし、過剰な利尿作用に伴う脱水症状、高Na血症などの副作用が出現する可能性があり、入院下で服用を開始し、少なくとも月1回は血清Na値を測定するよう定められている。今回、ADPKDにおけるトルバプタン適正使用について調査を行った。

### 3.研究に用いる情報の種類

観察研究

### 4.外部への情報の提供

研究結果は学会等で発表を予定していますが、登録された患者の個人情報個人が特定できないよう匿名化し、パスワードをかけて厳重に管理されます。

### 5.研究組織

研究機関名：済生会横浜市南部病院

研究責任者：薬剤部 加藤 一郎

### 6. お問い合わせ

本研究にご質問、または臨床研究の参加を希望されない場合は下記連絡先までお問い合わせください。

病院代表：045-832-1111

担当者：薬剤部 奥村 梨央